

「こんちはは  
健保組合ですー」

# 株式会社光伸清運 の巻 (市川市)



「大阪・関西万博」が、2025年4月13日から10月13日まで、大阪湾に浮かぶ人工島・夢洲<sup>ゆめしま</sup>で開催



▲石井社長(左)とドライバーさん

されます。「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに掲げ、各国の公式パビリオンや企業による民間パビリオンが集結し、最先端技術や持続可能な社会への取り組みを紹介します。公式キャラクター「ミヤクミヤク」は、2022年7月18日(開幕1000日前)に決定されました。斬新なデザインには賛否両論ありますが、認知度は抜群ではないでしょうか。日本での万博開催は、2005年に愛知県で開催された「愛・地球博」以来、20年ぶりです。

今年9月に「世界陸上競技選手権大会」、11月には「夏季デフリンピック競技大会」がそれぞれ東京で開催されるなど、国際的イベントが目白押しです。

2代目として事業を継承  
協同組合ごみ収集コールセンター設置

今回の訪問先は、市川市に本社を構える株式会社光伸清運(石井静雄社長)に伺いました。市川市は、東京都心から10〜20キロメートル圏内に位置し、西側は東京都江戸川区に接していることから通勤、通学の便が良く、現在は東京のベッドタウンとして発展しています。一方、市川市域に人が住み始めた歴史は古く、市内北部の台地上には旧石器時代の遺跡が多数存在しています。

光伸清運は、市川市北部、東京外かく環状道路(外環道)の市川北インターチェンジのほど近くに位置します。近隣には縄文時代後期(約4000〜3000年前)に形成された曾谷貝塚があり、1972年に国の史跡として指定されています。

同社の本社事務所は、閑静な住宅街に所在しており、外階段を上って2階事務所を訪ねる際、眼下には眺めの良い風景が広がっていました。「こんにちはトラック健保で

課題はドライバー不足  
収集車両の調達にも苦労

次に、経営環境についてうかがうと、問題は、運送業界の長年の課題であるドライバー不足とのこと。今後は、さらなる少子化に伴い人手不足に拍車がかかることを危惧しているそうです。昨年4月からドライバーの残業時間の上限



▲パッカー車

規制が開始され、「2024年物流問題」として話題になりましたが、この点については、家庭ごみの収集運搬が主な業務で、決められたルートと時間内で稼働することから、現時点では特段影響はない模様です。一方、物価高の昨今、燃料代の高騰が悩みの種であり、収集所ごとに頻繁に停車、ごみの積込稼働、発車を繰り返すため、貨物輸送トラックに比べ燃料消費量が負担となり、燃費対策は難しいのが現状のようです。

加えて、収集車両(パッカー車)の調達にも苦労しているとのこと。耐用年数は6年ほどですが、コロナ禍で稼働停止した部品や車両の製造ラインが、経済活動再開後もいまだに十分復旧しておらず、新規納車は1年待ち。また、荷箱にごみを積込圧縮するための回転板が劣化するなどして修理が必要な場合でも、修理業者が不足するなど、需要と供給のバランスが崩れたまま、今に至っています。

ごみを運ぶ事業者として  
回収・選別・廃棄を徹底

社員教育については、同社の運

健康維持には基礎体力  
「基礎」こそ長寿会社の秘訣

ごみ収集車は市区町村ごとに車両の種類とデザインが決まっております。市川市では、「キラリン・ピカリン」という2人の子供の魔法使いのキャラクターがパッカー車に描かれています(写真)。皆さまお住まいの自治体でも、パッカー車のデザインを確かめてみてはいかがでしょうか。

会社経営、代表理事としての協同組合の運営と、何かとご苦労の多い石井社長。多忙な日々を乗り切る秘訣と健康管理をお聞きすると、「基礎体力づくりが一番大切」と力説、そのために「スクワットと腹筋を続けています」と話され

す!」と訪ねると、石井社長の案内で応接室に通され、貴重な時間をちょうだいし、まずは同社の社史からうかがいました。

光伸清運は昭和46年7月に設立され、当初から現在に至るまで、市川市の委託を受けて家庭ごみの収集運搬を行っています。その他にも、市では収集を行わない事業系ごみや引越しの際等の大型ごみを市内全域と松戸市で、産業廃棄物を千葉県内で収集しており、設立以来、市民生活に欠かせない役割を担っています。設立時は数台の車両から始まりましたが、石井社長が先代と力を合わせて2代目社長として事業を継続し、今では、市川市で多くの車両を有する事業者として同社の地位を確立しました。

現在、市川市から委託を受けた20社がごみの収集運搬を行っています。各事業者が確実に効率よく収集運搬を行うため、平成29年に協同組合ごみ収集コールセンターを設置し、石井社長は代表理事として組合運営に尽力しています。ごみ収集コールセンターでは、これまで市が窓口となっていた市民の問い合わせに、県内初となる運行

ました。食事面では飲酒を控え、野菜中心の食事を心がけているそうです。学生時代からテニスで汗を流され、ゴルフやウォーキング、最近では、ご家族で山登りを始められるなど、運動がたいへん好きな石井社長ならではの秘訣をお持ちです。適度な運動と豊かな自然との触れあいでの肉体的・精神的ストレスを解消しているとお見受けしました。

「基礎が大切」という言葉には、創業54年、行政や市民から信頼を得て「脈々」と続く長寿会社の秘密が隠されているのではないのでしょうか。市民生活のライフラインとして光伸清運のますますの発展を祈念いたします。

☆☆☆

予定していた取材時間を終え、本誌掲載写真を撮影する際、現場から戻ってきたドライバーの方々が石井社長と談笑される様子を拝見し、立場の隔たりなく、明るい職場環境でコミュニケーションが図られていると感じました。石井社長はじめ、光伸清運の皆さま、ご協力ありがとうございました。